山口文学碑巡り No5（亀山　国木田独歩詩碑）

亀山のサビエル記念聖堂が建つ敷地から頂上公園に至る石段の中腹、踊り場に当たる東隅に石碑が建っています。**“山林に自由存す”**と刻まれた**国木田独歩**の詩碑です。明治 4 年に銚子で生まれ、播州龍野藩士だった父が、明治維新後山口県に裁判所の職を得て、岩国などを経て**明治 14 年に山口に移り住み**、独歩は今道小学校（現山口裁判所近く）に転校して来ます。**明治 18 年に旧制山口中学に入学**し、旧制中学の学制改変に際し中退して東京専門学校（後の早稲田大学の予科）に入学。以後山口県との縁を保ちながら文学を志し、若き日の彷徨を経て明治 41 年茅ケ崎の病院で没しました。享年 38 歳。**「武蔵野」**は彼の代名詞ともなる作品ですが、吉田松陰が野山獄に入っていた時に、気難しい人物として知られる**富永有隣**を描いた**「富岡先生」**など、山口にゆかりのある小説も著しています。詩碑の“山林に自由存す”は明治 30 年 4 月に**民友社**刊**の「抒情詩」**に**「独歩吟」**の一篇として編まれたもので、詩碑の文字は独歩の自筆原稿を拡大したものだと説明板にあります。詩は四連構成で、この紙面上に全てを紹介できませんが最初の一連を紹介します。

山林に自由存す
われ　此句を吟じて血のわくを覚ゆ
嗚呼　山林に自由存す
いかなればわれ山林をみすてし

（76 期　厚東一生）